

令和三年「三重県支部俳句大会」成績

令和三年五月

加古宗也先生 選

特選 燕来る鈴鹿の空の明るさに

松尾 紀子

春潮の大きく引きて島つなぐ

塗矢智恵子

入選 逆さまに干されし磯着風光る

三ツ矢龍美

神の山芽吹く茅場の広さかな

津田 壽美

昼蛙聞きつつ田水見て回る

岩脇 五風

試歩五百千を数へて花の風

近藤 昶子

つばくらめ空に角あるやうに飛ぶ

坂本富喜子

せはしなき棚田の蝶の上り下り

山口 一世

椎若葉城を高きに押し上げて

近藤 昶子

芭蕉生家春光交差して土間に

水谷 岩夫

一杯のコーヒー欲りぬ花の冷え

下村 菜々

田水張る千枚の顔とり戻す

福田 正

石井いさお先生 選

特選 人も荷も海を使ひて島日永

出口 洪子

真砂女の忌白に遅れて紫木蓮

中山 暁代

入選 競艇のターンのしづき風光る

卯滝 文雄

隠沼に雪の白さの水芭蕉

池田 美智

一湾に島影一つ誓子の忌

小林 青波

水のごと淡き天空鳥帰る

中島 邦子

船屋みな海に展きて燕来る

金津やよい

燈台をでんぐり返し海女潜る

松村 正之

春潮の大きく引きて島つなぐ

塗矢智恵子

引く鳥の群ごとの声揃ひゆく

武田 巨子

作業着を敷いて小さき花の宴

林 里美

櫂一本舞台が小舟壬生狂言

平野 淑子

宮田 正和先生 選

特選 板の間に赤子の眠る暮春かな

橋本 石火

入選 鬨ぎ合ひ渦潮深くなりけり

森 多恵子

斎野の天高らかに初雲雀

奥野 順子

後退りできぬはひはひ桃の花

芦田 昌男

地物てふ跳ねる余力の躑躅かな

浦 悦子

春惜しむ一筆箋の余白かな

豊田 麻佐子

夕焼けて石尊千疊火の滴

佐藤 茂

初蝶や子の前髪を切りそろへ

谷元たか子

奥志摩の風待港椿咲く

松本 貞子

一湾の藍深くして花は葉に

西尾 敬一

西田 誠先生 選

特選 春泥を跳び越す齡すでに過ぎ

伊藤 正子

入選 伏兵の雉子とび出す関ヶ原

稲垣いつを

跡継ぎの決まらぬままに田を植うる

山口 八重

亡き母と待ち合はせする花の下

小川ひとみ

雉鳴けり丸太五本の谷の橋

箱林のぶ子

春風やどつかと伏して孕牛

芦田 昌男

青楓裳裾にかかる摩崖仏

西田 尚子

降ろされて地団駄を踏む奴胤

中山 暁代

作業着を敷いて小さき花の宴

林 里美

築かけて川につけおく酒の瓶

西山 幾代

坂口緑志先生 選

特選 風まとふごとく纏ひぬ春シヨール

橋本 石火

入選 魚屋の隣に研屋花の雨

上野山明子

伊賀乱のありし戦地に雉走る

島井 節

亡き母と待ち合はせする花の下

小川ひとみ

初蝶の翅をあふりし灘の風

福田 優子

穢を払ふ大松明やお水取

西田 誠

船屋みな海に展きて燕来る

金津やよい

初蝶や子の前髪を切りそろへ

谷元たか子

義仲寺の風に玉解く芭蕉かな

古川 和子

一湾の藍深くして花は葉に

西尾 敬一

橋本石火先生 選

特選 作業着を敷いて小さき花の宴

林 里美

入選 逆さまに干されし磯着風光る

三ツ矢龍美

追伸の花の一句へ花の句を

太田貴美子

廃線となりたる駅の桜かな

平田 冬か

自動ドア出でて大路の若葉風

玉城 泰生

つばくらめ空に角あるやうに飛ぶ

坂本富喜子

せせらぎの音に躡く春の蝶

梅枝あゆみ

降ろされて地団駄を踏む奴胤

中山 暁代

老木の落花かそけき夕べかな

積木 道代

一合が二合となりぬ螢烏賊

森下 充子

福山 良子先生 選

特選 鄙に生れ鄙に老いたり烏雲に

上村 和子

入選 閑ぎ合ひ渦潮深くなりけり

森 多恵子

板の間に赤子の眠る暮春かな

橋本 石火

斎野の天高らかに初雲雀

奥野 順子

小面のくちびる動く春の闇

佐野 弓子

円錐の雄岳雌岳や黄砂降る

藤田 郁子

春風やどつかと伏して孕牛

芦田 昌男

スケボーを背ナに袈裟懸け卒業生

三輪 明美

乳母車押せば囀り四方より

服部登紀子

万愚節診察室に舌出して

前田 照子

西尾 敬一先生 選

特選 手から手へ「結ひ」の屋根替合掌村

三輪 明美

入選 伏兵の雉子とび出す関ヶ原

稲垣いつを

てのひらに風の湿りや遠蛙

三ツ矢龍美

廃線となりたる駅の桜かな

平田 冬か

一湾に鳥影一つ誓子の忌

小林 青波

ふらここや全身バネになる園児

樋口 一破

花潜り来て仏前の昏みかな

上田佳久子

燈台をでんぐり返し海女潜る

松村 正之

春田打ち落人の郷に鹿と住む

羽多野和子

田水張る千枚の顔とり戻す

福田 正

土井 陽代先生 選

特選 ほんまのこと言ふなと飛ばすしやぼん玉

永井 みよ

入選 濁らせて己が身を守る蛸蚪の知恵

平野 透

啓蟄や朽木の洞に百足の子

島井 節

たんぽぽの絮吹きて雲耀かす

米野てるみ

つばくらめ空に角あるやうに飛ぶ

坂本富喜子

春風やどつかと伏して孕み牛

芦田 昌男

ふらここや全身バネになる園児

樋口 一破

船屋みな海に展きて燕来る

金津やよい

義仲寺の風に玉解く芭蕉かな

古川 和子

斎王の越えし道てふ別れ霜

宮田 正和

芦田 昌男先生 選

特選 朧月夜座り慣れたる椅子の向き

米野てるみ

入選 八方へ花のかんばせ花御堂

樋口 良子

囀りの神代も斯くに伊勢の宮

西岡 節子

鳥雲に筆筥に遺る短歌帳

小川ひとみ

肘鉄砲くらふも恋のあめんぼう

平田 冬か

葉桜のさざめく山の息吹かな

村田 郁夫

燈台をでんぐり返し海女潜る

松村 正之

初蝶や子の前髪を切りそろへ

谷元たか子

踏青やゆるぶ日のいろ土のいろ

村田まみよ

花冷やビルに一つの避雷針

池森はる子

三田 洋子先生 選

特選 渡されて密書めきたる落し文

上村 和子

入選 追伸の花の一句へ花の句を

太田貴美子

競艇のターンのしぶき風光る

卯滝 文雄

寄り合うて無縁佛や花の雨

箱林のぶ子

つばくらめ空に角あるやうに飛ぶ

坂本富喜子

椎若葉城を高きに押し上げて

近藤 昶子

闇深かむ春灯一つ過疎の村

佃 実

松蟬や海女の祈願の岬寺

宮田 正和

節目たつ棕櫚の撞木や鐘供養

武田 巨子

櫂一本舞台が小舟壬生狂言

平野 淑子

高点句賞（特選を2点としました）

4点句 つばくらめ空に角あるやうに飛ぶ

坂本富喜子

作業着を敷いて小さき花の宴

林 里美

3点句 春風やどつかと伏して孕牛

芦田 昌男

板の間に赤子の眠る暮春かな

橋本 石火

船屋みな海に展きて燕来る

金津やよい

燈台をでんぐり返し海女潜る

松村 正之

春潮の大きく引きて島つなぐ

塗矢智恵子

初蝶や子の前髪を切りそろへ

谷元たか子